

① 説明文の読み方

◆ 接続語の用法

接続語は、「言葉と言葉」「文と文」「段落と段落」などのつながり方を示す大切な言葉です。その働きによって次のように分類されます。

- ① **順接**：前のことから原因・理由となり、その当然の結果・結論が後にくる
だから・したがって・それで・そこで・すると・ゆえに など
- ② **逆接**：前のことごとと逆になるようなことごととがらや、くいちがうことごととが後にくる
しかし・だが・けれど・ところが・でも・が・しかるに など
- ③ **並立（並列）**：前のことごとと後のことごととが対等な関係でならべられている
また・ならびに・および など
- ④ **添加（累加）**：まえのことごととに後のことごととをつけ加える
そして・さらに・そのうえ・それから・しかも・それに など
- ⑤ **説明**：例を示したり、理由を述べたり、言い換えたりしてくわしく説明する。
 - ・ **例示**：具体例を示す
たとえば・いわば など
 - ・ **理由**：理由を述べる
なぜなら・というのは など
 - ・ **換言**：言い換える
つまり・すなわち など
 - ・ **補足**：補い、条件などをつけ加える
ただし など
- ⑥ **選択**：前のことごとと後のことごととを対比したり、そのどちらかを選ぶことを示したりする
あるいは・または・それとも・もしくは など
- ⑦ **転換**：前のことごととから話題を変えたり、話題を限定したりする
ところで・それでは・さて・では・ときに など

◆ 指示語の用法

文章を読むときは、指示語の指し示す内容をきちんととらえることが大切です。指示語は、主に直前に述べた内容を受けて、くり返しをさせて、後につながる言葉です。指示語が指し示す内容は、「単語や語句」、「一文」、「いくつかの文」、「一つの段落」、「いくつかの段落」とさまざま場合があります。前後をていねいに読み、指示語がどういうことをさしているのかをおさえながら読み進めることが大切です。

指示語の種類

指すもの	自分に近いもの	相手に近いもの	どちらからも遠いもの	はっきりしないもの
ものごと	これ	それ	あれ	どれ
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向	こちら	そちら	あちら	どちら
ものごと	この	その	あの	どの
様子	こう	そう	ああ	どう
様子	こんな(だ)	そんな(だ)	あんな(だ)	どんな(だ)
	こ	そ	あ	ど

◆ 文章の組み立てを考える

説明的文章をより正確に読み取るためには、文章全体の組み立てを考える必要があります。

① 形式段落ごとに要点を読み取る

各形式段落の大事な内容を「**要点**」といいます。この「**要点**」を読み取るには、形式段落ごとの「**話題**」を読み取り、形式段落をまとめる役割をする「**中心文**」をみつけることが大切です。

② 文章全体を意味段落にまとめる

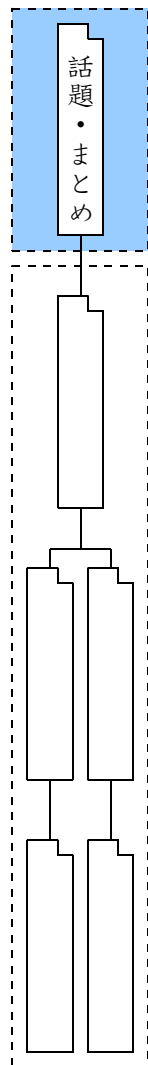
形式段落ごとの話題と要点を読み取り、くりかえし出てくる重要語句(キーワード)をチェックすることで、となり合う形式段落の話題や内容が共通しているかどうか、連続しているかどうか、もしくはちがう話題に移ったのかどうかなどを考え、意味段落にまとめます。

③ 文章全体における意味段落の役割を考える

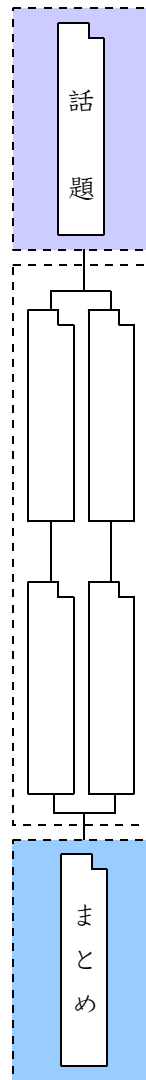
- ・ 話題を提出する「**話題段落**」
- ・ 結論(まとめ)を示す「**結論段落**」
- ・ 具体例を示したり、理由・原因などを述べる「**説明段落**」

④ 説明的文書の組み立てにはいくつかの基本パターンがあります。

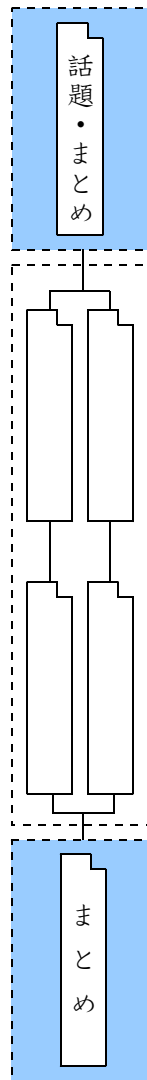
頭括型



尾括型



双括型



◆ 文章の要旨を読み取る

説明的文章において、筆者がその文章を通して最も言いたかったことを「要旨」といいます。「要旨」を読み取るには、

- ① 「結論段落」をみつける：文章の最初か最後、あるいは両方
 - ② 「結論段落」の中心文（まとめ）をみつける
 - ③ 文章を「要約」する
- 「要約」とは、説明的文章の大事なところを落とさずに短くまとめることです。文章全体の「要約」は、「要旨」をふくめて文章全体の要点をまとめたものです。

② 文章問題にチャレンジ！

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本語には「待つ」ことを表すのにきわめて豊かな表現がある。待ちわびる、待ち遠しい、待ちかまえる、待ち伏せる、待ちあぐねる、待ちこがれる、待ちかねる、待ちきれない、待ちくたびれる、待ち明かす、待てど暮らせど、待ちぼうけ……。

ア 「待つ」をめぐってこれほど豊かな表現があるというのは、日本人が「待つ」という言葉に深い思いを託してきたことの証だと言えるかもしれない。じっさい、万葉集から古今和歌集、さらには最近の短歌にまで、ひとがじりじりと待つことの辛さ、むなしさ、甲斐のなさを歌ったものがきわめて多く見いだされる。① 待つ時間

※ 法外な長さを山鳥の尾になぞらえて歌った和歌は、日本人のほとんどが知っている。もうここにすでにうかがわれるように、「待つ」ことはたいていの場合、報

われないものなのだ。

A 友人の心、あるいは家族のどれかの心が余所に行ってしまい、とうとう自分から離れていってしまったそのひとが戻ってくるのを待つひとの気持ちを想像してみる。自分から去っていったひとのことを待つのはそれじたいがづらいものだ。棄てられたのだから。それに「待っている」というそぶりを見せつつ必死で待っていたら、相手は余計に鬱陶しがり、負担に感じて、ますます遠ざかってゆくことになる。B、「待つ」という顔を※おくびにも出さず、それでも心のなかでは祈るような気持ちで待つことになる。

(中 略)

けれども、それでも待っているひとは帰ってこない。そのうちこんどは、こんなに苦しい思いをして待っている自分がしだいに哀れに思えてきて、神か何か自分を超えたものにすがりつきたくなる。「きつと神様は見えていくださる」、と。C これも「期待して待つ」ことにほかならないわけで、だから祈りながらも、期待して待つてはいけないと自分に言い聞かす。そしてそんな自分がさらにますます哀れになる。そして、やがて、自分がここにいるということじたいが苦痛になり、自分が潰れそうになるのだが、それでも自分の存在を消すことはできず、苦しい想いをただただ澱のようにため込むばかりの時間が延々とつづく。

「待つ」とは②このように苦しいものだ。なかなか報われないもの、甲斐のないものだ。けれども、とわたしは思うのだが、期待することを断念し、祈るようにして待つていたことがらをもあきらめるなかではじめて、ほんとうの「待つ」は始まるのではないか。「期待せずに待つ」ということの意味を探るとなみも、ここからようやくと始まるのではないか。

それにしてもなぜ、こんなにまで苦しくとも、それでもひとは待たねばならないのか。

時を駆る「プロ」(「あらかじめ」「先に」「前方に」という※メンタリテイについては前章でもふれた。③わたしたちがなす※プロジェクトはみな、先取りとか前屈みのかたち、言ってみれば未来の目標に向けていま自分たちがなすべきことを設定する、そんな前傾姿勢のかたちで取り組まれる。時を駆るにあたって障害になるものはすべて排除される。少しでも効率的に早く未来を手に入れることが望まれる。企業活動について言えるのと同じことが、人生の折節についても言えるだろう。ひとびとが待てなくなっていること、あるいは世の中が待てくれなくなっていることの背景には、時を駆るこういうメンタリテイがわたしたち近代人に深く浸透してきているという事情があるのではないかと思われる。

しかし、未来との時間的なかわりは「時を駆る」というかたちばかりをとるものではない。「時を駆る」「めざす」のちようど反対方向のかかわりが、④何かの「訪れを待つ」ということだ。あるいは「機が熟すのを待つ」ということだ。これは未来というものに自分のほうから何か仕掛けるのではなく、向こう側から何かやってくるのを待つという、X 姿勢である。

「訪れを待つ」というのは、偶然に身を置いておくということである。あいだに何が起こるかかわらないからそれをも含めて、長い眼で見る、そして自然に機が熟

すのを待つ、要は、時が満ちるのを待つということである。

農耕ということが社会的な生産行為の中心であったような時代は、この「機が熟すのを待つ」というのは、農業の最大の秘訣であった。作物は焦って育てようとすれば、かならず失敗する。台風が来るかもしれない、干ばつになるかもしれない、そんな人間にはどうにもならない自然環境の偶然、さらには植物が自然に熟するためにどうしても必要な時間、そういうものへの配慮というのが農耕といういなみにおいてはおもっても本質的な意味をもつ。焦ってはならないのだ。細心の注意を払いつつ、不慮の出来事への準備もしながら、しかし機が熟すまで待つ、それが肝心なのだ。

ここにも味な日本語があつて、「寝かせる」という言葉がある。☑酒やさまざまの発酵食品をおいしくいただくには、発酵のために必要な時間をしっかり置かなければならない。その時間をくぐり抜けてはじめてそれらは奥深い味になる。ここでは、時間の経過を何の介入もしないでじっと待つことが肝要だ。

これを、「※イニシアティヴの放棄」と言いかえてもよい。自分が☐Yのではなくて、向こうが勝手に熟成するのを待つ——子育ての場合なら、子どもがいろいろ冒険をして、ときには痛い目にあつても放っておいて、少し離れたところから静かに見守り、子どもが自分で気づくのを待つ、そう子どもが勝手に育つのを待つ——ということである。

⑤ 育児のみならず、高齢者の介護、障害者の介助などケア全般について、このことは言えるように思う。ケアにおいていちばん大事なものは、相手を励ますことではなくて、相手が心の深くに抱え込んでいる困難について、きちんと、そしてじっと聴いてあげることだ。☒「そんなふうには思つてはいけない」と言うのではなく、「ああ、そんなふうにするのですね」と、いったんそのひとの※しんどい思いを受けとめ、肯定してあげることだ。そしてそこからそのひとが立ち直つてゆくのを、ひたすらじっと待つ……。

もちろん何でも待つていれば解決するということではない。政治や経済にはやはりプロジェクト、つまりは前に投げかけることが必要だ。けれどもこの「プロ」の心性ですべてを進めればやがて墓穴を掘ることになる。プロジェクトの姿勢、つまり時を駆る心性は、もう一つ別の姿勢、つまり訪れを待つ心性によって裏打ちされ、補完されていなければならない。

(鷺田清一「わかりやすいはわかりにくい? —臨床哲学講座」より)

※ 法外……とてつもないこと。

※ おくびにも出さず……ある物事を心に秘めて、少しも口に出して言わず。

※ メンタリテイ……心理状態。心性。

※ プロジェクト……企画。研究計画。開発事業。

※ イニシアティヴ……主導権。

※ しんどい……くたびれている。つらい。苦しい。

問一 に入る言葉として適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア または イ それで ウ ところで エ なぜなら
オ けれども カ たとえば

A

B

C

問二 ——— 線① 「待つ時間の法外な長さを山鳥の尾になぞらえて歌った和歌」とあります

が、これは「万葉集」に収められた柿本人麻呂の一首、「あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む」を指します。筆者がこの和歌に言及した理由を次のように説明するとき、空欄に入る言葉を五字で探し、抜き出して答えなさい。

- ・ 恋しいひとは戻ってこず、待ち続けても 苦しさを歌った歌が日本には古来多くあることを示したいから。

ヒント

傍線部の和歌や、直前で挙げられた「万葉集から古今和歌集、さらには最近の短歌」は、「ひとがじりじりと待つことの辛さ、むなしさ、甲斐のなさを歌ったもの」(6・7行め)の例として挙げられています。傍線直後の、『待つ』ことはたいていの場合、報われないものなのだ(9・10行め)という見解に導くために、これらに言及したのですね。

問三 ——— 線② 「このように」が指す内容として合わないものを次から一つ選び、記号で

答えなさい。

- ア 自分を棄てた人を待つことそのものがつらい。
イ 相手に負担をかけまいとして心中で祈るように待つのがつらい。
ウ 神様にすがりつくが応えてもらえないことがつらい。
エ 待ち続ける自分の存在自体が苦痛になるが、どうにもできないのがつらい。

ヒント

「待つ」ことの「苦しさ」、「報われな」さ、「甲斐のなさ」(26・27行め)を示した具体例が、「このように」の指す内容ですから、11〜25行めの部分と、選択肢とを照らして、正しいものを三つ確認します。

問四

——線③「わたしたちがなすプロジェクト」とありますが、これはどういう心性を持つものですか。次のように説明するとき、空欄に入る言葉を指定の字数で探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

- ・ (1) 四字 (2) 四字 をとる心性

(1)

(2)

2 こうした心性に慣れ親しんでいる結果、ということが生じていますか。四十字以内で探し、はじめと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

ヒント

1 「プロジェクト」は、「先取りとかく前傾姿勢のかたちで取り組まれる」(34～36行め)とあります。これは、直前の、「時を駆る『プロ』(『あらかじめ』『先に』『前方に』)というメンタリテイ」(33行め)を言い換えた表現ですから、これらの部分から、空欄にあてはまる言葉を探します。

2 1の心性を説明している形式段落(33～41行め)に、「ひとびとが待てなくなっていること、あるいは世の中が待ってくれなくなっていること」の背景には、時を駆るこういうメンタリテイがわたしたち近代人に深く浸透してきているという事情があるのではないかとあります。

問五

——線④「何かの『訪れを待つ』とあるいは『機が熟すのを待つ』ということだ」とありますが、これらにあたりないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 偶然を受け入れること。 イ 絶えず細心の注意を払うこと。
- ウ 入念に計画し、焦らずに実行すること。 エ 時機が到来するまで忍耐すること。

--

ヒント

傍線部の心性について、42～73行めで説明されています。このこと、選択肢の内容を照らして、これらの心性にあたるものを三つ選びます。残った選択肢・ウの「入念に計画し」「実行する」とは、「訪れを待つ」「機が熟すのを待つ」ではなく、その逆の、「自分のほうから何か仕掛ける」(45行め)ことにあたるでしょう。

問六

X

に入る言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 一見したら受動的な イ かぎりなく主体的な
- ウ 見るからに自律的な エ 他人任せの楽天的な

--

ヒント

直前に「自分のほうから何か仕掛けるのではなく」、また55・56行めに「細心の注意を払いつつ、不慮の出来事への準備もしながら」などとあることから考えます。

問七

☐ Y ☐に入る六字の言葉を探し、抜き出して答えなさい（符号は一字に数えません）。

ヒント

空欄を含む部分、「自分が☐ Y ☐ではなくて、向こうが勝手に熟成するのを待つ」（62・63行め）は、「自分のほうから何か仕掛けるのではなく、向こう側から何かやってくるのを待つ」（45・46行め）と対応しています。

問八

——線⑤「育児のみならず、高齢者の介護、障害者の介助などケア全般について」筆者が言っているのはどういうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の自主性に任せて放っておくのではなく、成長したり立ち直ったりするよう強くうながすこと。
- イ 励ましたり悩みを聴いてあげたりするのではなく、相手が自力で心身ともに立ち上がるのを期待すること。
- ウ 相手がいま直面している課題を見て見ぬふりするのではなく、一緒に取り組み、解決しようとする事。
- エ すぐに手助けしたり励ましたりするのではなく、相手の気持ちや行動をきちんと受け止め、見守り続けること。

ヒント

62〜73行めに内容と照らし合わせます。いかにももっともらしい選択肢に飛びつかないようにしましょう。

問九

~~~~線『期待せずに待つ』ということの意味」とありますが、人間関係について言えばどういうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の意志や目標を押しつけず、相手の身になって気づかうこと。
- イ 相手に要求ばかりせずに、自ら積極的に行動すること。
- ウ 相手から主体性を引き出そうと、根気強く働きかけること。
- エ 望ましい効果が得られない場合には、いつまでも執着しないこと。

|  |
|--|
|  |
|--|



### ヒント

「期待せずに待つ」というのは「イニシアティブ（主導権）の放棄」（62行め）をしつつ、「長い眼で見る、そして自然に機が熟すのを待つ」（48・49行め）という姿勢です。それを「人間関係について」言っているのは（62〜73行め）の範囲です。（問八）を参考にしつつ選びましょう。

### 問十

次の文は本文から抜き出したものです。本文に戻すとき、入る場所を **ア**〜**エ** から選び、記号で答えなさい。

- これはものがおのずから熟成するのを待つということだ。

### ヒント

抜き出した文は、「時を駆る」心性ではなく、「訪れを待つ」心性の内容を表しています。ですから、42行め以降にあてはまることがわかります。また、「もの」とありますから、人のケアについて述べた、62〜73行めの範囲ではありません。さらに、「熟成」という言葉が使われている場所は……と、あてはまる範囲を絞り込んでいきます。

## ③ 物語文の読み方

### ◆ 場面と登場人物を読み取る

#### ① 場面を読み取る

「場面」とは、物語や小説などの話の筋（ストーリー）を

- いっ（時）
- どこで（場所）
- だれが（登場人物）
- どうした（できごと）

という四つの点からとらえたひとまとまりの部分のことです。この四つの点に注意して読み進めることで、ひとつのまとまりとしての「場面」をとらえ、場面から場面への変化（場面展開）も正確にたどることができます。

#### ② 登場人物を理解する

物語や小説の中では、さまざまな人物がいろいろなできごとをおこします。登場人物を理解するには、次のことに注意しましょう。

- 登場人物と人間関係をつかむ

だれが主人公なのか。同一人物が別の呼び方で表現されている場合もあります。  
 ・登場人物の性別・年齢などや、気持ち・行動をつかむ  
 ・登場人物の間の心理的な関係をつかむ  
 人物同士がおたがいどんな感情をいだいているかを理解しましょう。

◆ こころの動きを追う

物語や小説の作者は、自分の考えや理想を主人公や登場人物を通して読者に伝えようとしています。それぞれの場面で登場人物がどういう言動をとるか、その背後にある心の動きや考えを観察するように読みましょう。

① 登場人物の気持ちや心の動きを読み取る

主人公の人間像や性格を読み取ったり、場面の理解を深めたりするためには、場面ごとのできごとに対する人物の心の動きや考えと、その表れである言動との結びつきを読み取ることが大切です。

・心の動きを**直接描写**している部分に注目する。

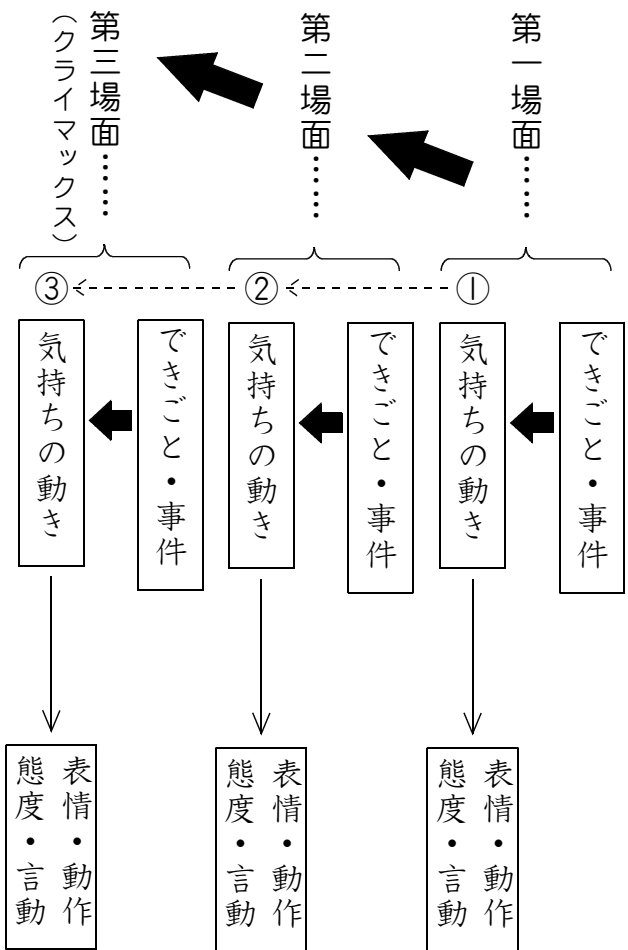
「喜ぶ」「さびしい」、「…と感じる」などの表現に着目しましょう。

・心の動きを**間接描写**している部分に注目する。

人物の言葉や表情、態度、様子、行動などから気持ちや考えを読み取れます。また、周囲の情景をえがくことで人物の気持ちを描写することもあります。間接描写の部分は、場面全体の展開や因果関係、時代背景などをもとに人物の気持ちを想像し、直接描写に言い換えて読み進めるとよいでしょう。

② 登場人物の気持ちや心の動きを読み取る

場面が移り変わるとともに、登場人物の気持ちや変化していきます。気持ちの変化をひきおこすきっかけとなる「できごと・事件」に注目し、それを登場人物がどう受けとめるかによって「気持ち」の変化が生じるのです。



◆ **主題をつかもう**

物語において、作者がその文章を通して最も書き表したかったことを「**主題**」といいます。作者は登場人物を通して「**主題**」を表現するので、登場人物の人間像をとらえることが、「**主題**」を読み取るうえでとても大切です。

① 登場人物の性格や人物像をとらえる  
その人物の性格を直接表している言葉だけでなく、言動や考え方、その人物に対する周りの人の態度などからも、人物像が見えてきます。

② 山場（クライマックス）をよみとる  
物語のなかで、心を動かされたり共感したりして強く心に残った場面や、劇的にできごとが変化して話がりあがる場面を「山場（クライマックス）」といいます。どのようなことに心を動かされたのか、できごとに変化をもたらしたものが何なのかを考えると、主題が見えてきます。

④ **言語要素問題にチャレンジ！**

チャレンジ問題①

次の(1)～(5)の慣用句の意味から連想される四字熟語を、後の①～⑥からそれぞれ選びなさい。

- |           |             |           |
|-----------|-------------|-----------|
| (1) 肩を並べる | (2) 腹にすえかねる | (3) 腕をふるう |
| (4) 鼻にかける | (5) 胸をなでおろす |           |
| ① 言語道断    | ② 円満解決      | ③ 創意工夫    |
| ④ 以心伝心    | ⑤ 自画自賛      | ⑥ 実力伯仲    |

解答らん

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| ①   | ①   | ①   | ①   | ①   |
| ②   | ②   | ②   | ②   | ②   |
| ③   | ③   | ③   | ③   | ③   |
| ④   | ④   | ④   | ④   | ④   |
| ⑤   | ⑤   | ⑤   | ⑤   | ⑤   |
| ⑥   | ⑥   | ⑥   | ⑥   | ⑥   |

チャレンジ問題②

次の各文のカタカナを漢字に直したときの部首を、それぞれ後から選びなさい。

- (1) 上官の命令にソムくことは許されない。
- (2) 木に竹をツグようなやり方はだめだ。
- (3) 早期に解決をハカることが先決だ。
- (4) 商品を期日までにオサめる。
- (5) 勝負にヤブレはしたが、よく健闘したよ。

- |   |      |   |     |   |      |   |      |
|---|------|---|-----|---|------|---|------|
| ① | いとへん | ② | てへん | ③ | いしへん | ④ | さんずい |
| ⑤ | にすい  | ⑥ | のぶん | ⑦ | にくづき | ⑧ | くがまえ |

解答らん

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| ①   | ①   | ①   | ①   | ①   |
| ②   | ②   | ②   | ②   | ②   |
| ③   | ③   | ③   | ③   | ③   |
| ④   | ④   | ④   | ④   | ④   |
| ⑤   | ⑤   | ⑤   | ⑤   | ⑤   |
| ⑥   | ⑥   | ⑥   | ⑥   | ⑥   |
| ⑦   | ⑦   | ⑦   | ⑦   | ⑦   |
| ⑧   | ⑧   | ⑧   | ⑧   | ⑧   |

チャレンジ問題③

次の①～⑤の□にあてはまることばを、後の①～⑤からそれぞれ選びなさい。

- (1) 子どものわがままに□する。
- (2) 両者□をけずる。
- (3) 正月□の行事。
- (4) 勝敗のなりゆきを□をのんで見守る。
- (5) 決心がつかず□する。

- |   |                          |   |     |   |                        |   |                        |
|---|--------------------------|---|-----|---|------------------------|---|------------------------|
| ① | 躊躇 <small>ちゆうちゆう</small> | ② | しのぎ | ③ | 恒例 <small>こうれい</small> | ④ | 固唾 <small>かたず</small>  |
|   |                          |   |     |   |                        | ⑤ | 閉口 <small>へいこう</small> |

解答らん

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| ①   | ①   | ①   | ①   | ①   |
| ②   | ②   | ②   | ②   | ②   |
| ③   | ③   | ③   | ③   | ③   |
| ④   | ④   | ④   | ④   | ④   |
| ⑤   | ⑤   | ⑤   | ⑤   | ⑤   |